

水稻品種「つや姫」の奨励品種の指定について

1 概要

平成21年9月4日開催の「平成21年度主要農作物品種審査会」の答申に基づき、山形県で育成した水稻品種「つや姫」を宮城県の奨励品種に指定しました（平成21年9月18日付け宮城県公報掲載）。

2 水稻品種「つや姫」について

(1) 来歴

「つや姫」は、山形県農業総合研究センター水田農業試験場（旧農業生産技術試験場庄内支場）において、「山形70号」を母、「東北164号」を父として1998年に人工交配が行われ、選抜・育成された品種です。旧系統名は「山形97号」で、山形県では平成20年度に奨励品種に採用されています。

(2) 品種の特徴

- 宮城県では**極晩生（ごくばんせい）品種**で、出穂期は、「コシヒカリ」とほぼ同じかやや早く、「ひとめぼれ」より7～10日程度遅くなります。そのため、「ひとめぼれ」などの中生（なかて）品種との組み合わせで収穫期間が拡大できます。
- 「コシヒカリ」より**草丈が短い**ため、倒れにくく栽培しやすい品種です。
- 玄米品質は、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」と同程度か優ります。
- 炊飯米は光沢、白さが優れ、良食味です。「コシヒカリ」と比べて**粘りが少なく、あっさりした食感**です。

(3) 奨励品種に採用した理由

県内の南部平坦地帯を中心とする平坦部では、極晩生品種として作付けされている「コシヒカリ」では倒れやすい特徴があることから、また、中生品種の「ひとめぼれ」では登熟期間に高温の影響を受けやすいことから、それぞれ玄米品質が低下しやすい状況にあります。「つや姫」は、「コシヒカリ」と同じ極晩生品種で、草丈が短くて倒伏に強いことから、南部平坦地帯を中心とする平坦部での品質向上に貢献することが期待されます。

(4) 普及見込み地帯と今後の作付見込み

南部平坦地帯、北部平坦地帯及び仙台湾沿岸地帯の平坦部における「コシヒカリ」や「ひとめぼれ」の代替品種として、作付目標面積を1,000ヘクタールとしています。

3 山形県での状況等

(1) 名称の由来

平成21年2月に「つや姫（山形97号）ブランド化戦略実施本部会議」において7つの品種名候補から「つや姫」に決定されています。「炊き上がりのツヤと輝き、冷めてもおいしい商品力に、大切に育てた意味の「姫」を」から命名されています。

(2) 山形県での生産状況等

平成21年産を先行販売として位置づけ、60ヘクタールを作付けしています。平成22年産は、一般作付けとして2,500ヘクタールを計画しています。